



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会  
編集・広報委員会  
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3  
〒807-0025  
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354  
第394号

## いつだってこの胸の衝動から始まる

7月に入り、北九州市内の教会と私達水巻教会ではこれまで中止していた公開ミサを再開する運びとなりました。現在、様々な制限があるなかで行われており、様々な意見や受け止め方があるかとは思いますが、灰の水曜日（今年度は2月26日）以降、約4ヶ月ぶりにミサに与ることができるようになったこと、このこと自体にまず心から感謝しなければなりません。ミサの説教でも触れましたが、この4ヶ月のあいだ自肅を享受していたのは私達だけではなく、イエス様も同様です。「自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」（マルコ8:34）と言われたイエス様は、私達に教会に集えないうとしても、信仰と直結する私生活それぞれのなかで十字架を背負ってご自分に従うように諭されたのです。そして、ご自分は一人、神の計画に従ってゴルゴタの丘へ上って行かれました。新型コロナウイルスによってさらに苦しむこととなったすべての人のために。

毎年、普段なら私達は四旬節と聖週間、それから復活節とイエス様の歩みを追いながら過ごしますが、自肅時間の続くなかにあってはどのように過ごして

きたでしょうか。公開ミサが始まったこの機会に振り返ってみましょう。私達はイエス様の教えに従っているのか。私達は神が人となったという神秘を信じているのか。イエス様が背負うようにと促している十字架を果たして背負ってきたのか。罪びとはどういう意味なのだろうか、そもそも罪とは何だろうか・・・など異様な事態となった今年だからこそ、多くのことを思いながら過ごしてきたのではないのでしょうか。

よく聞く歌の歌詞に次のようなものがあります。

**「理屈ではなくて、いつだってこの胸の衝動から始まる。」**

私達がイエス様の教えに従うのも、神が人となったという神秘を信じることも自分の十字架を背負うことも、罪びとであることを意識することも、罪を自覚す

特別号・未配達の方へ、	2面
在留外国人への支援活動の現状	3面
神の道具として生きる	4・5面
委員会報告	5面
教会学校より・ガンバ2	6面
幼稚園から	7面
お知らせ	8面

ることも本来、「理屈」ではなくて「衝動」から始まることなのです。「衝動」に突き動かされて信仰が深まっていくことに気付きましょう。その「衝動」は表現を変えれば「呼びかけ(召命)」です!理屈を理解してはじめてキリスト信者になるのではなく、イエス様を目の前にした私達が衝動に駆られ、従っていく決意が生じることでそうなるのです。理屈は衝動にあおられて後々深まっていきます。

公開ミサが再開したことをきっかけとして、信者としての原点に立ち戻らせる「衝動」に気付くことができますように。共同体の中でイエス様に触れることができるようになった今だからこそ突き動かされましょう。コロナ禍と向き合うためにも欠かすことはできないものです。

フランシスコ・アシジ 谷口尚志  
(2面へ続く)



### 特別号・未配達の方へ、お詫びと請うご理解

広報委員 山口 一隆

福岡県にコロナが流行りだしてから約3ヶ月にわたって教会が閉鎖されました。この間2度にわたって、「からしだね」特別号を発行しましたが、いくつかの理由により発行部数を限定、一部の方に配布が行き届かないという事態が発生しました。「からしだね」特別号が届かなかった信者の皆様に広報委員会からお詫びすると同時に、こうした事態に至ったことをご理解下さるようお願いしたいと思います。

教会の閉鎖が決まった3月末は、コロナの実態が分からず、とはいっても今も多くの点が不明です。社会全体もナーバスになっていました。それでも「密着を避ける」事は当初から言われており、当初から行事、勉強会、小グループの集まりは、避けるようにいわれていました。

このため、一人で編集、発行することで蜜を避けました。配布するためには地区委員の方の手を煩わせねばなりません。一軒一軒手配りでは、「蜜になる」事があり得るため郵送という形をとらざるを得ず、これを実行するため、発行部数を抑えました。

配布先を選定する点では、宛先を書くより、地区委員さんのお手を煩わせました。郵送先を絞る作業は大変であったと想像されます。本当にありがとうございました。

今回の事態は不測の事態でしたが、今後の連絡体制作りには大いに参考になりました。インターネットの活用により、配布部数を減らすことで地区委員さんの作業をできる限り減らす事も考えています。

## 在留外国人への支援活動の現状

岩本光弘

コロナウイルスのために国中の動きが止まってしまいました。6月から少しずつ動きが始まったとたん各地で在留外国人の困窮が表面に出てきました。日本人も困っている人が多い状態ですから、日本社会に完全に根をおろしていない外国人はもっと大変なことになっています。3月になって東京教区国際センター(CTIC)のスタッフの友人から次のような電話がありました。「九州で困っている外国人はいませんか。こちらでは悲惨な状態になっている人からの相談が増えています。」私の所にはそのような状態の話はきていませんでした。

話を聞くと通称「人文・芸術」と呼ばれる28種類の入国許可業種の人たちにひどい状態が出ているという話でした。司祭やシスターや教師や医師などは良いのですが、通訳や調理師などで在留許可を得て入国している人たちが軒並み失職しているというのです。

それなら留学生や技能実習生はどうなっているのかと聞くと、留学生のアルバイトがほとんどなくなって困窮しているというのです。そのほかには実習先から失踪した技能実習生たちがひどい状況になっているという話でした。

そこで以前から相談していた、失踪しないように呼び掛けるピラの作成を急ぐことになりました。九州限定版で作ることになりましたので、支援に参加する人の確認と、ピラの内容を議論してメールで確認後、東京で翻訳へ回しました。その後、翻訳文の校正を福岡のベトナム人にしてもらい最終決定しました。印刷に回すまで1か月かかりました。

5月に入って東京から2000枚のピラが送られてきました。カラー版での素晴らしいものが出来上がりましたが、行動が制限されていたので配布の目途が立ちませんでした。

全国の行動制限解除がありましたので6月21日からベトナム語ミサが再開されました。この時にピラを配布するのが一番効率が良いので、ミサをする神父と相談して出かけることになりました。今までに熊本、諫早、豊後高田、浄水通と4つの教会を回りました。行ったところでは彼らに歓迎され楽しい交流をしています。月末からは日田、下関と回る予定です。

6月9日、カトリック難民移住移動者委員会と移住者と連帯する全国ネットワークの共催でベトナム人ホットラインが開催されました。(カトリック新聞6月23日号参照)九州では私たちの会が担当しました。この時は1件だけ問題が残りました。7月4日第2回のホットラインが開催されましたが、九州では4件の相談がありました。1件は苅田町の実習生でしたので、小倉まで出てきてもらい相談を受けました。その他の2件は電話で対応しましたが最終的には6月から継続して5件のケースが残りました。大分県佐伯市の件もあります。

7月に入り九州各地から相談の電話が私の所に入り始めました。宮崎、佐賀、久留米、八代などです。何か所は行かないといけないと思っています。

実習生の問題は急増しています。東京では失踪してきた実習生の過酷な現状があります。失踪していく九州の実習生たちには、失踪した後の現実を知らせないといけません。みんな日本は素晴らしいと言います。だから失踪していても良いことがあると思っています。

残念ながら素晴らしいことばかりではない現実を彼らに教えることは急務なのです。

## 神の道具として生きる

7・15(水) イザヤ書に学ぶ 福嶋 東三子

アッシリヤ王が「自分の手の力によって私はい、聡明な自分の知恵によって全ての富を手に入れた」と傲り高ぶる彼に、万軍の主なる神は、「太った者の中に衰弱を送り、主の栄光の下に炎を燃え上がらせ、火のように燃えさせられる。斧(おの)がそれを振るう者に対して自分を誇り、鋸(のこぎり)がそれを使う者に向かって高ぶることができるだろうか。」と仰せになる。

この御言葉に、私達は斧であり鋸という道具に過ぎないではないか？正しく、美しく、大切に使う謙虚さと勤勉さを学ばなければならない。道具とは、道の具。道とは神そのものであり、具とは(ある用途に供せられるもの)なのです。「わたしは道であり、真理であり、命である」と万軍の主は諭されます。

4ヶ月の教会ミサ休会の間、(神の栄光と賛美のため、また全教会と私たち自身の為に、司祭の手を通してお捧げする生贄をお受け下さい〜)と御聖体拝領を賜わる事が出来ませんでした。今迄より以上に神を仰ぎ求めて祈り、誘惑に打ち勝ち、清い心身を捧げられた事でしょう！季節は春から初夏、そして梅雨。異常気象による梅雨前線の線状降水帯による豪雨が今なお各地で多大な災害をもたらせています。

コロナ禍の恐怖の中で更に追い討ちをかけるような自然災害に私達人間の無力さを見せつけられます。被災者の姿は明日の我が身でもあると思うと、日頃の予防を怠る事が出来ません。

人間の果てしない経済的豊かさへの追求が地球環境を破壊している事は周知の事実です。持続可能な(SDGs)世界を目指して、枯渇燃料(石油、石炭、天然ガスなど)から再生可能(太陽光、風、水など)エネルギーへと転換が急がれています。一昨年(2018)スウェーデンの17歳の環境活動家グレタ・トゥーンベリさんが国連気候変動会議で訴えた言葉が今また痛切に心に響きます。

「多くの人達が苦しみ、死んでいます。全ての生態系が破壊されています。30年以上にわたって科学は地球温暖化についてはっきりと数字で示してきました。それに目を背けて、自分たちはやるべきことをやっている、とよくもそんなことを言えますね！」

彼女が怒りに震える声で訴えた姿は、無力な大人の一人として申し訳なく、未来を生きる若者の言葉に返す言葉が有りません。

奇しくもコロナ禍の全世界的な自粛によって、経済活動が停滞し、燃料大量消費の飛行機は飛ばず、外出規制によって車の通交も減少して、今までになく空は青く澄み、地球温暖化の原因となっている一酸化炭素 CO2 が減少しています！

見えない敵、コロナウイルスが人類に警告を発していると考え、最悪の時にも感謝

すべきものが有る事を悟らせてくれています。

元に戻らない、戻れない新しい生活様式が始まっています。人類に与えられた知恵(斧)と能力(鋸)という神から頂いた道具を用いてワクチン開発や地球温暖化を防ぐ資源の開発に力を注いでいる研究者、科学者、感染者治療の最前線で日々過酷な労働を強いられている医療従事者の方々に感謝の祈りを捧げます。ニューノーマル(新しい常態)の希望を持って、神の語りかけに答えて生きていきましょう!

## 委員会等報告

2020年7月分

### 7月度小教区委員会 7月5日

#### 1. 行事予定

- ・8月 2日(日) 小教区委員会
- ・8月 15日(土) 聖母被昇天ミサ  
9:00~ 11:00~
- ・9月 13日(日) 敬老のお祝い会 (中止)  
⇒からしだねで知らせる。

#### 2. 議題

##### (1) 各委員会報告

##### ① 広報委員会

からしだねを教会閉鎖期間に臨時号を発行、常時来られている方に郵送しました。

##### ② 納骨堂委員会

中間地区： 故 中村信子さん

海老津地区： 故 森下正子さん

遠賀地区： 故 星山かずえさん

の納骨予定です。

##### (2) コロナ対策

- ・教会としての対策内容を掲示します。
- ・掲示の内容は順次見直しますが、皆さん掲示に従ってください。
- ・ミサ後の清掃は1部、2部共に消毒を行います。
- ・冬に向けての対策も検討します。

##### (3) スロープ・2階部分補修工事

- ・雨漏りで鉄骨の柱が朽ちる可能性があるため、相見積もりにて
- ・中山建材店に依頼予定。

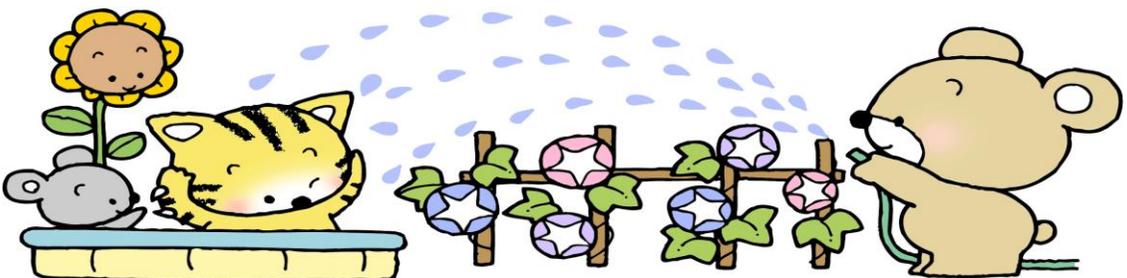
##### (4) ホームページの管理について

コロナウイルス対策も含め、連絡が行き届かなかった。

今後、どうやって改善するか、を考えます。

##### (5) 地区集会

連絡網の確認・整備について



## 教会学校のページ

7月12日 教会学校も再始動しました。まずは、この4か月半子ども達とそ  
のご家族が神様のお守りの中、健康を維持することができたこと、そして元気に教  
会で再び会うことができたことに心から感謝したいです。

残念ながら、からしだね3月号でお知らせした教会学校年間スケジュールのほ  
とんどが、実施困難となりました。その中で6月14日に予定されていた5名の  
子ども達の初聖体式を、延期して年内最後の主日12月27日に執り行うこと  
にしました。先日の初聖体クラス(10回目)でも子ども達は熱心に勉強に取り組  
んでいました。この子ども達の頑張りを神様もきっと頼もしく天上より眺めていら  
っしゃることと思います。困難や試練を乗り越えて迎える当日はきっと格別の喜  
びを得ることでしょう。当日までまた心新たに皆で準備していきたいと思います。

それにしても、色々な重苦しい空気を吹き飛ばしてくれる、子ども達のパワー  
すごいですね。そんな子ども達の笑顔が少しでも多く見たいので、十分な予防策  
を講じながら楽しみ方の時間も作っていきたいと考えています。



### レプトン会の紹介

岩本 ナセ

南米ペルーで最も貧困の激しい地区の貧しい子どもたち  
を支援しています。現地で活動しているイエスのカリタス修道女会ペルー共同体を通し  
て「福音宣教とその分かち合いとは何か」を学ぶことを目的とし、1997年4月に発足  
しました。1レプトンとは、当時の1日の賃金の1/128、およそ50円にあたります。  
聖書の中の「やもめの献金」はレプトン銅貨2枚でした。(マルコ12:42)これに因ん  
で「レプトン会」と名付けました。

現在会員は43名です。活動の3本柱は ①募金活動 ②ペルーの現状報告会 ③  
一日黙想会です。皆様のご協力により、毎月第一日曜日と第二日曜日の募金と特別献金  
またワイン・ケーキの販売等で、ペルーへ送金し続けて23年目になります。ペルーの  
現状報告会や一日黙想会も続けています。

一口100円からの募金に協力して下さる方をお待ちしております。



## 水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 8月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

### <水巻聖母幼稚園>

幼稚園の園庭には、年長さんが育てている朝顔のツルがどんどん伸び、子ども達も観察をして、晴の日には毎日の水やりにも励んでいます。

7月から自粛登園を緩和して、子ども達が元気に登園できるようになりました。久しぶりに友達に会えて子ども達はとても喜んでいました。あっという間に背も伸びて、いつの間にか平仮名が読めていたり、上手にハサミが使えていたり、改めて子ども達の成長の速さを感じました。毎週金曜日には、神父様が教会の鐘をならして下さり、鐘の音を聴きながら子ども達とお祈りをしています。現在もコロナ渦の中で働かされている医療従事者の方、大雨の災害に遭われている方へのお祈りです。

先日は年長さんのカレーパーティでした。畑で育てた野菜を調理して作りました。調理の過程で良い匂いが漂うと、何度も鍋を覗く姿が微笑ましかったです。

みんなで作ったカレーライスはとびきり美味しかったです。



### <マリア子どもの家>

5月の連休前に、みんなで植え付けポットに野菜の種を植えました。ひょうたん、キュウリ、すいか、とまと、ゴーヤなど。少し大きくなったところでプランターに植え替え、朝夕競って如雨露で水をやりました。又、グリーンカーテンのためにと、役場からいただいた苗もありました。

「ひょうたんが成る。」と楽しみにしていたところ、あれあれ、何だか違うね。キュウリでした!!

すいかも、畑で小玉りんごくらいの大きさになっています。大雨に負けず大きくなってね。



TEL : 050 5212 7759

HP : 水巻町マリア子どもの家  
水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家  
園長 水口 由美・教職員一同



### ★聖母被昇天のミサ★

日時：8月15日(土)

午前9時～ 芦屋・遠賀・梅ノ木

吉田・中間地区の方

午前11時～ 赤間・海老津・折尾

高須、青葉地区の方

今年は、コロナウイルス感染対策として  
主日のミサと同様に2部制になります。

### ★今年の行事について★

今年は、例年行われていた行事が、コロナウイルス感染対策で中止になっています。中止になったものは以下の通りです。

○教会学校 ファミリーキャンプ

○へいわの集い

○敬老のお祝い会

### ★特別寄付★

海老津地区の森下様よりご寄付を頂きました。ありがとうございました。

### 人・ひと

【帰天】安らかに！

◇3月17日

クララ 浜口 ヨシエ様  
折尾地区

◇4月10日

ガブリエル・マリア  
橋本 末寿枝様  
赤間地区

◇6月4日

マリア・マグダレナ  
星山 和恵様  
梅ノ木地区

◇6月7日

マリア・ガラシア  
森下 正子様  
海老津地区

◇7月17日

マリア 川脇 静子様  
梅ノ木地区

教会のミサが中止になっていた間に、5名の方が帰天されました。彼らのためにお祈りください。

### (編集後記)

久しぶりの編集では、三密にならないように、マスク着用で、ソーシャル・ディスタンスを守りながらの作成でした。

編集部屋では、飲食禁止ということもあり、おやつも食べられず、編集委員さん、悪戦苦闘。本当にご苦労様でした。